

真名井大介

視えないはたらき

戦闘機の赤い悲鳴が
空を割る
昼下がり

縁側のおばあは
手を休めることなく
破れた芭蕉布を
縫い合わせる

念願の一子が産まれたと
異国の友から
喜びの電話が鳴った朝

庭先のシラユリが
こくりとうなづき
ひとり静かに
事切れていた

互いをおぎなう
光と影
二つを同時にあらしめる
一つの視えないはたらきによって

この星の秘密の地軸は
今もたしかに 保たれている